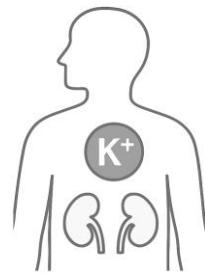


高カリウム血症とは

高カリウム血症とは、血液中のカリウム濃度が正常よりも高くなつた状態を指します。カリウム濃度の正常値は3.5～5.0 mEq/Lで、それを上回る場合に高カリウム血症と診断されます。



カリウムは体内に存在する電解質の1つで、細胞内の浸透圧を調整するはたらきをするほか、ナトリウムを排出する作用を持つため、塩分の摂りすぎを調整するのにも役立ちます。

カリウムは人体に必要な電解質ですが、カリウムが多すぎてもよくはありません。カリウムの濃度が異常に高くなつた場合には不整脈を起こし、場合によっては心臓が止まつてしまつます。

そのため、高カリウム血症になった場合には、食事療法や薬物療法などによって血液中のカリウム濃度を下げる必要となる場合があります。

症状

軽度の場合には自覚症状がないことがほとんどですが、血液中のカリウム濃度が高くなるにつれて、手足に力が入りにくくなる（筋力低下）、吐き気、動悸、意識を失う（失神）などの症状が出てくることがあります。また、重度になると不整脈が生じ、心停止によつて命を落とすこともあります。

特にカリウム濃度が7 mEq/L以上になると心停止の危険があるため、緊急治療を要します。

治療

慢性的な高カリウム血症における治療としては食事療法が中心で、血清カリウム値5.5 mEq/L以下を目標に食事からのカリウム摂取量を制限します。さまざまな食べ物にカリウムが多く含まれているほか、調理法によって摂取量が変わつてきます。



食事療法のみでは不十分な場合には、排尿を促す利尿薬や、カリウムを腸管内で吸収させないようにするイオン交換樹脂・化合物などの内服薬が併用されます。

- 筋力低下
- 吐き気
- 失神



ふれあい曾山医院

胃腸内科・外科・内科・肛門外科・循環器内科
SOYAMA-clinic.com

志筑1391-9
Tel:62-5566

2025年11月号
(第159号)

発行人
曾山 信彦



編集委員会



曾山医院
ホームページ
soyama-clinic.com

